

## 令和7年2月記者発表

### 質疑応答の概要

Q.

令和7年度当初予算で、ロープウェイに関する調査費として370万2,000円とありますがすべてロープウェイの調査費に充てられる費用でよろしいでしょうか。

A.交通政策推進室長

370万2,000円のうち、ロープウェイの委託費としましては340万円です。富谷市地域公共交通活性化協議会の委員への謝礼が約30万円です。

Q.

ロープウェイ関係で、今回予算案で調査費を計上していますが、いつごろ実際に着工または利用できる状態にするか考えられておりますか。

A.市長

導入可能性調査ということで、まずは導入が可能かどうか、可能とすればどういったルートで、どのような形であれば可能かということ、令和7年度中にすべて単年度で調査を終える予定で計画を立てています。最終的には、仙台市のご理解とご協力をいただかなければなりませんので、今回の調査結果を踏まえて、もし導入が可能だとなれば、その段階で次のステップなり、検討する形になるかと思えます。まず、今回は導入の可能性も含めての調査を行うということです。

Q.

仙台市との協議に関する話がありましたが、郡仙台市長がハードルが高いとして、否定的な意見を述べられております。今の協議の状況と調査を踏まえてということでしたが、今後の協議はどのようにお考えでしょうか。

A.市長

仙台市には、2月6日に副市長が仙台市の都市整備局長を訪問させていただきました。仙台市長と副市長は市議会開催中とのことであり、局長のところに訪問となりました。これまでの経緯も含めて説明をさせていただきました。

その際、郡市長が記者会見等で懸念を示していたプライバシーの問題は、神戸市のJR住吉駅と六甲アイランド駅を結ぶ神戸新交通六甲アイランド線(通称:六甲ライナー)における、高架路線で特殊ガラスを採用しております。2枚ガラスの間に、液晶シートを入れ電気を通すと透明にそして電気を切ると曇るという、瞬時に透明と不透明を切り替えることができる特殊なガラスです。近くに建つマンションや民間のプライバシーへの配慮で、上下線それぞれ曇る区間が設定されており、1993年に導入され20年以上の実績があり、そのことも併せて、ご報告をさせていただきました。ご報告させていただいた内容はしっかりと郡市長にもお伝えいただいているものだと思っております。今後は、導入可能性も含めた調査を踏まえて、その結果をもって仙台市へ報告と相談をする形になるかと思っております。これまで以上に、こまめに報告をさせていただければというところです。

Q.

六甲ライナーの話がされるということは、観光資源としての活用は考えられていないとの理解でよろしいでしょうか。

A.市長

交通戦略の中で軸となる基幹公共交通の部分で、これまで地下鉄の延伸もしくはBRTという形で調査研究してきましたが、今回新たに第3の候補として都市型自走式ロープウェイを検討することになりました。あくまでも泉中央からの基幹公共交通ということで導入を検討するものです。

Q.

実際に導入する場合としては何年度以降でしょうか。

A.市長

今回の調査で導入の可能性、どのようなルートでどのような手法かを調査します。その結果を踏まえて、次のステップが見えてくるものだと思っております。まずは令和7年度中に調査研究をしっかりと行ってまいります。

Q.

ロープウェイの関係ですが、調査委託先はZip Infrastructure株式会社（以降ジップインフラストラクチャー）かと思いますが、契約方式を教えてください。

A.市長

今回、実績もあるジップインフラストラクチャーに調査を委託することを検討しています。他に業者がいまないので、随意契約になるかと思っております。

Q.

前回の記者会見でどういった調査をするのかという質問があったと思いますが、改めて導入可能性調査の中身について、仙台市は4号線を超えるのは大変じゃないかとの話もありましたが、お聞かせください。

A.市長

今回の業務内容につきましては、導入ルートの検討と導入に向けた物理的条件の整理です。あとは概算事業費の検討という形になると思っております。また事業スキームと収支計画の検討、事業化に向けた課題の整理ということで、それぞれしっかりと計画や調査研究をしていただく予定で進めたいと思っております。

Q.

予算外議案の議員報酬引き上げの話ですが人事院勧告の話もありましたが、他の地域と比べて富谷市の議員報酬が低かったなど、経緯をもう少し詳しく教えてください。

A.総務課長

富谷市の議員報酬と三役の給与についてですが、本市は町から市へというステップを踏んでいる背景もあり、町の時代に他市との格差がありました。平成28年に市に移行して、県内の類似団体の市に近づけていくように、段階的に引き上げを行っていくのが望ましいだろうと審議会で示されたことや議会からの申し入れも背景にあります。

Q.

類似団体と比較し高くなるとかではなく、近づいているとのことですか。

A.総務課長

今回の引き上げで平均的なところには入ってきました。三役については、差はありますが、少しずつ類似団体に近づいている状況となります。市長に関しては先ほど総務部長から申し上げましたように、就任して初めての引き上げとなります。

Q.

ロープウェイの話ですが、郡仙台市長には直接話はされていないとの認識でよろしいでしょうか。

A.副市長

私の方から仙台市の都市整備局長へ説明させていただき、都市整備局長から仙台市の副市長・市長に報告をいただいていると思います。副市長への訪問をお願いしたところ、議会前で忙しいということで、都市整備局長とお会いしてお話しした経過でございます。

Q.

導入可能性調査を行った上で、仙台市へお話をされると思いますが、定期的に仙台市とは協議を続けられるという認識でよろしいでしょうか。それとも1年後ぐらいにまとめてお話をされるのでしょうか。

A.市長

その都度、必要に応じてご報告をさせていただきます。

Q.

当初予算が6年連続で最大とのことですが、最大に増えた一番の要因は何かというのが一つと、もし今回の当初予算に何かキャッチフレーズをつけるのであればお聞かせください。

A.財政課長

今回6年連続で最高額を更新している内容ですが、前年度にも引き続いてですが、図書館等複合施設整備事業が大きく、この事業だけでも今年度25億円計上しておりますので、そのところが最大の要因です。

A.市長

キャッチフレーズについては考えておりませんでした。

Q.

先ほどのロープウェイの調査で、内容はルートと物理的条件とのことだったと思いますが、物理的条件とはどういったものでしょうか。

A.市長

導入に向けた物理的条件の整理という部分につきましては、路線選定に当たり高架道路、学校等の設計上のコントロールポイントを検討し、実現が可能か物理的条件を整理し設定をすることです。

Q.

議員と特別職の報酬引き上げについて、例えば議員であれば、なり手不足の解消など、その目的を教えてください。また改定率は、議員が15%で、特別職3%とのことですが、算定の根拠を教えてください。

また、議員18人で今回の引き上げによって年間で総額いくら増えるかも合わせて教えてください。市長の引き上げは平成8年度以来29年ぶりとのことですが、議員報酬の引き上げは何年以來何年ぶりでしょうか。

A.総務課長

議員から要請があつてのことですが、将来的に、なり手をしっかり見据えていくというのは一つの大きな視点であると思っています。前は令和3年に改定があり、その際は、審議会自体は令和2年に行い、コロナ禍を考慮して実施の時期は令和3年4月1日に改定しています。その際は議員報酬15%の引き上げを行っています。議員報酬の影響額ですが、今回の引き上げで年間1,000万円の予算増になると想定しています。

Q.

類似団体とは人口規模が似通っている他自治体という理解でよろしいでしょうか。

A.総務課長

産業構造と人口などの考え方から、宮城県で本市の類似団体の対象としたのは、塩竈市、名取市、多賀城市です。

Q.

この類似団体を参考に議員報酬は15%、特別職は3%引き上げとのことではよろしいでしょうか。

A.総務課長

議員報酬に関してはそういう視点ですが、三役に関しては3%の改定率ですので、職員の人事院勧告のベースアップ2.8を一つの基準としています。

Q.

これからの富谷市の都市計画としてどのようなスタンスでいかれるのかを伺います。発展の仕方、都市開発の仕方という部分の方向性を想定で結構ですが、おおよそどのようなことを考えていらっしゃるかお聞かせください。

A.市長

町から市になったのは、平成28年の10月10日です。その際に、市になることが目的ではなくて、大切なのはどんな市を作るといふことで、市制施行に合わせて総合計画を策定しました。作成するにあたり、アンケート調査、住民の意向調査、さまざまな座談会など、いろいろご意見をいただいて、市になってからの十年間の総合計画を策定しました。

その一つの目標の指針がいわゆる富谷は村から町へ、町から市へ1度も合併することなく、単独で発展をしてきて、今後も人口は増え続け、東北では唯一の2045年まで増え続ける自治体といわれており、100年間人が増え続けるまちを目指しましょうと、そのためには、住みたくなるまち日本一をスローガンに掲げて総合計画をスタートしました。

この10年間の総合計画が、令和7年度で10年目を迎えます。次の令和8年度から新たな

10年のスタートになります。新たな10年の計画を、令和7年度当初予算の中に示していますが、今後10年間の富谷市の未来を計画とする、総合計画の策定に関する予算を掲げております。2060年まで100年間人口が増え続けることを何とか実現しようというのが、目標です。そのためのさまざまな施策の一つが、いわゆる住宅であり、これは自然増だけでは限界があります。社会増を出すために民間の皆さんのご協力をいただきながら住宅を計画的に造成しています。

また、職場がなければならぬので工業団地の整備もあわせて行ってきました。北部工業団地は大和町ですが、そこに勤める従業員の住まいは富谷市が一番多くなっております。これは、子育てや教育に力を入れて、富谷を選んでもらえるよう努力をしてきたということも要因だと考えております。また、仙台市・大和町・大衡村に依存ではなくて、独自の工業開発を行い、高屋敷そして高屋敷西地区も、36ヘクタールが1年で完売した状況にあります。これは間違いなく半導体関連企業の集積の風が吹いていると感じ、成田二期北工業団地200ヘクタールをしっかりと手をかけるタイミングにきたと考えて、宮城県の全面的なご協力をいただきながら、そして何よりも、区画整理事業ですので地権者の皆さんの決断によって、これまで準備委員会を行い、現在は、土地区画整理組合準備会という形で開催をしております。

今回アクセス道路の整備を行います。それを踏まえて、今年の5月に市街化区域編入を目指して準備を進めているところです。引き続き200ヘクタールの工業団地の整備に合わせて、明石台東の分譲が順調に進んでおります。新たに成田二期東の造成が進んでおり、これから分譲になります。

目指すところは、100年間人が増え続ける町を実現することです。10年前も5年前の前年から後期計画を検討する時も含めて、今回も新たな調査をするのに、住民意向調査を実施しました。おかげさまで回収率は高く、60%以上となりました。その中の富谷市がこれから必要な施策は何という間に、第1位は、前回・前々回に引き続き、今回も73.3%が泉中央駅からの基幹公共交通を望むものであり、第2位には、図書館や病院の総合病院などいろいろなものがありますが、1位は断トツで、そういった住民の皆さんの意見もあり、基幹公共交通は何よりも最優先にこれまで取り組んできました。とてもハードルが高いですが、市民の皆さんが望むことを実現するために一生懸命努力をしております。

Q.

---

先ほどのロープウェイの関係で、先日仙台市の都市整備局長にお話しに行ったということですが、仙台市の定例会見でも郡市長が難しいのではと難色を示されています。お話された時は、都市整備局長からどういったことを求められたのでしょうか。

A.副市長

---

私の方からはプライバシーの問題が瞬間曇りガラスで解決できるのでないかという話と、これまでのロープウェイ導入検討の経緯を説明させていただきました。そして、地下鉄とBRTとともに第3の選択肢として都市型ロープウェイを検討対象にして、来年度調査をしたいという話をいたしました。仙台市からは、情報共有をしっかりと欲しいというようなお話がありましたので、頻りに仙台市に情報共有し、ご協力をいただきながら進めていきたいと思いますとの話をしましりました。

Q.

仙台市からは、情報共有をしっかりと行ってほしいとの要望があったということでしょうか。

A.市長

今回のロープウェイは、第3の候補として令和7年度に調査を行い、導入が可能か不可能かどうかも含めて調査するものであり、まだロープウェイを導入することが決定したものではありません。これまで地下鉄の延伸もしくはBRTの調査を進めて、仙台市にご報告をしております。地下鉄、BRTそれぞれに課題があることは仙台市と共有しながら、そして今回新たに第3の候補として、自走式都市型ロープウェイの導入可能性も含めての調査を行いますので、今回の結果を踏まえて、仙台市にご相談するのは次の段階だと考えております。今の段階で、導入が可能かどうかも含めて、我々もまだわからない状況です。少なくとも今から調査を行い、結果を踏まえて、仙台市にご相談をするという形です。都市型ロープウェイの整備についてはまだこれからの話であります。

Q.

富谷市の交通活性化協議会のメンバーに仙台市も入っていると思いますが、ロープウェイの話の唐突に聞いたと仙台市が発言しており、理解できなかったのですが、情報の共有はこれまでどうされてきましたか。

A.市長

11月の会議には仙台市の担当課長も出席をされており、会議を新聞社が傍聴しており、大きく記事になりましたので、私は仙台市が言う全く聞いてないというのは正直驚きました。

Q.

ロープウェイの話が出てきた会議に仙台市が入っているとの理解でよろしいでしょうか。

A.副市長

11月27日に地域交通活性化協議会を開催しております、その時に地域公共交通計画の素案を示し、都市型ロープウェイ導入可能性を検討しますという中身を入れております。仙台市の交通政策課長も委員になっていただいておりますので、ご出席をいただいております。

Q.

発酵のまちづくり推進事業ですが、1,698万8,000円との予算ですが、これは全部サミットの開催費用ととらえてよろしいのかどうかと、サミットの開催月を教えてください。

A.産業観光課長

サミットの経費ですが、設営経費それから開催経費としては1,500万円を見込んでおります。その他事業に関して必要な経費としてその他の分を計上しております。またサミットに関しましては10月11日と12日の2日間で開催する予定で進めています。

A.市長

この全国発酵食品サミットは、富谷市が第15回目の開催となります。令和6年度は千葉県香取市で開催されておりました、次年度開催地として、富谷市ということで決定し、令和7年10月開催に向けて、新年度予算を計上させていただいたところです。